

聖母の小さな学校 通信

第 22 号
2009 年
2 月 1 日発行
聖母の小さな学校

◆ 今、ありのままの自分から出発するのです ◆ ◆ 聖母の小さな学校創立 20 周年記念教育シンポジウムについて ◆

春の息吹の感じられる頃となりました。生徒たちも 1 年のまとめになる 3 学期を、実りを確認する時と位置づけて頑張っています。

人に話しかけることができない自分、家族以外の人の中にとドキドキしてどうしていいかわからなくなる自分、午前中だけ聖母に通うのがやっとの自分、週 3 日通うのが精一杯の自分、でも調理実習している時や、国語の授業や、家で宿題している時に楽しいな、と感じる自分……どんな自分も全て自分です。どれを欠いてもよくありません。まずは、素直にそのままの自分を受け入れましょう。そのままの自分をじっくりとよく見てみると、学校に行きにくいという悩みの部分もあるけれど、少し友達に挨拶ができるようになったとか、少しだけ人の話を聞くのが楽しくなったとか、イライラしなくなったとか、先生の顔をしっかり見て話が聞けるようになったとか、自分の全体の姿が見えてきます。そうすると、自分が努力したい部分が少しははっきりしてくるでしょう。そのようにして、課題をつかみ、成長への一歩を始めるのです。今の自分を否定しないでください。

さて、今月は、「聖母の小さな学校創立 20 周年記念教育シンポジウム」があります。その中で、聖母で学んだ卒業生たちが、「今の自分を支えている土台に、不登校を生き抜いた体験があり、それは自分の誇りである」と様々な言い方で語るでしょう。彼らがこの時を通して身につけた生きる力を見ていただきたいと思います。その力はありのままの自分に出会い、認めて、そこから出発して得たものです。是非、大勢の方々に教育シンポジウムにご参加いただきたいと思います。生徒たちと共にお待ちしています。

聖母の小さな学校創立 20 周年記念教育シンポジウムのご案内

「伝えたい！私が生きた不登校 ～不登校をどう理解し、支えるか～」

日時：2 月 15 日（日）午後 1 時～4 時 20 分

場所：舞鶴市総合文化会館小ホール

内容：基 調 講 演 「聖母の小さな学校の教育の根底にあるもの」大塚 喜直 氏
(本校顧問・学校法人メリノール女子学院理事)

体 験 を 語 る 「不登校から学んだもの」卒業生 3 名

シンポジウム 「不登校の子どもをどう理解し、支えるか」

コーディネーター 井口 裕明 氏 (前舞鶴市立城北中学校長)

シンポジスト 奥水 孝志 氏 (舞鶴市教育委員会総括指導主事)

笠原 昌明 氏 (舞鶴市立城南中学校生徒指導主任)

卒業生保護者

本校卒業生

梅澤 良子 (本校副代表)